令和４年度 第一回燕市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　令和４年 11 月 24 日（木）　午後３時 30 分～午後４時 30 分

２　開催場所　　会議室 301

３　出席者の氏名

市　　長　　鈴　木　　力

教育委員会

教　育　長　　小　林　靖　直

教育長職務代理者　　中　野　信　男

委　　員　　秦　　久 美 子

委　　員　　斎　藤　純　郎

委　　員　　小　林　恵　子

委　　員　　上　田　佳　澄

４　説明のため出席した職員

教 育 次 長	太　田　和　行	教育委員会主幹	鈴　木　華奈子
学校教育課長	岡　部　清　美	子育て支援課長	白　井　健　次
社会教育課長	廣　田　友　幸	統括指導主事	今　井　泰　輔
企画財政課副主幹	山　崎　聡　子		

５　事務局書記

学校教育課　　大　塚　小 由 紀　　他　２ 名

６　傍聴人　　なし

７　意見交換

（１）　次期燕市教育大綱の策定について

次第　　別紙のとおり（2 ページ）

意見交換（概要）　　別紙のとおり（3 ページ以降）

令和４年度

第 一 回 燕 市 総 合 教 育 会 議

＜次　第＞

令和４年 11 月 24 日（木）午後３時 30 分から
会場：会議室３０１

１　開　会

２　市長あいさつ

３　意 見 交 換

（検討テーマ）
（１）　次期燕市教育大綱の策定について

４　閉　会

１．開会宣言　　午後 3 時 30 分

２．市長挨拶

皆様お疲れ様です、定例教育委員会に引き続き、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

この総合教育会議では、私と教育委員の皆さんと、年に一度、市の教育政策に対して様々なテーマで意見交換をさせていただいている。

今年度は、令和５年度からの第２期教育大綱や、市の最上位計画である総合計画についても策定している年である。この後事務局より説明があると思うが、市において教育大綱に代える計画がある場合は、その計画をもって教育大綱とすることができるとなっている。次期教育大綱においては、単独で計画を作成するのではなく、同じく令和５年度を始期とする「第３次燕市総合計画」の教育分野をもって教育大綱に代えることとしたいと考えており、この後の意見交換をもって決定させていただきたい。総合計画については現在作成中であり１２月の議員協議会で議員の意見を聴取しパブリックコメントを実施していく。時世が不確定な状況でもあるが、確実に進んでいるものもある。本日は時間の許す限り意見交換をさせていただきたい。

3. 意見交換

（１）次期教育大綱の方向性について

岡部学校教育課長が資料説明を行い、その後に意見交換を行った。

〇市長

まずは、燕市総合計画をもって燕市教育大綱に代えることについて決定させていただきたい。

資料１にもあるとおり、文部科学省初等中等教育庁の通知において、該当する計画を大綱に代えることを、総合教育会議で協議調整し判断した場合、大綱を策定する必要はないとされている。中身はこれから議論いただくとして、位置づけとして、総合計画をもって教育大綱とすることとしたいがいかがか。

〇各委員

〈異議なしとの声〉

〇市長

それでは、燕市総合計画をもって教育大綱に代えることとする。それでは次期燕市総合計画の案について委員の皆様より意見を頂戴したい。

○委員（斎藤委員）
　基本方針の教育の充実には現況と課題の部分に「教育立市宣言」について記載を加えていただきたい。また、学校教育基本計画を作成するにあたって実施した保護者アンケート結果では、保護者のふるさと教育に対する意識が高くないとなっているが、ふるさと教育の必要性については教育長も市の広報でも語られている。ふるさと教育の重要性について理由を書き加えていただきたい。さらに、学校教育基本計画の中には幼児教育、家庭教育について記載されているが、総合計画には記載がないため同じように加えていただきたい。

○教育委員会主幹
　委員のご意見の通り、教育立市宣言について加えるとともに、ふるさと教育については郷土学習の必要性を加えるよう修正させていただく。

○子育て支援課長
　幼児教育についても記載するよう調整させていただく。

○委員（小林委員）
　学びの土台となる読解力について内容は理解できる。授業改善について、教職員の研修のありかたについて書かれていない。個別計画である学校教育基本計画に記載されているから、総合計画の中では記載しなくてもよいのか個人では判断しかねるが、いかがか。

○市長
　職員研修・能力育成についての詳細については燕市行革推進プランにおいて整理されており、教員については学校教育基本計画に記載することで、網羅できると考えている。

○委員（中野委員）
　教育委員会事務局の職員として、必要な能力についての研修については市役所の計画にあるか。

○市長
　市の研修計画は、一般行政職員として必要な研修計画であり、教育委員会事務局職員にとして特化した研修計画としたものではない。

○委員（中野委員）
　全体として練られている計画であると思う。社会人として感じることを反映できればと思っている。社会において、一般的な知識を理解できていない状態で社会に出ている人がいくらかいると感じる。経験による知識だけでなく学問的な知識も更に身に付けていかないと会社も個人も教育現場も今の時代に即した能力向上ができない。その他に、教師の能力向上と学習支援員や学校介助員、事務補佐員などを少しでも多く配置していかないと教員が指導に向ける時間が十分にとれない。欧米に行くと相対的に日本社会の実力が下がっ

ていることを感じる。私自身民間シンクタンクによる講演を年２～３回聞いている。それによると、多くの数値からいまや日本は、先進国ではなく、中進国であると言われている。教育のみの問題ではないが。様々な教育行政に取り組む中、文科省の指針に沿った教育だけではなく、世界と燕の状況を知ることが重要になってくると思う。教育委員会の職員や教員はそういった感覚をもって業務にあたっていただきたい。こういった講演は無料でインターネットでも公開されている。警鐘を鳴らしているので、ぜひ聞いてもらいたいと思う。

○教育長
　貴重なご指摘。教員の指導力向上と世界との相対的な視点を持つ必要性について課題をいただいたと思っている。一つの指標として義務教育までの学力ということとなるが、国際的な学力調査で読解力、数学、理科の学力を測るものでは日本は高い順位となっている。

○市長
　子どもたちが社会に出たときに必要なことは、課題を発見する力だと思っている。答えがない課題に対してどう取り組んでいくことが重要だと考える。それを意識して、学校教育から離れた教育機会を設け、教育委員会主催の長善館学習塾等の取り組みを大切にしてきた。

○委員（中野委員）
　英語教育についての感想であるが、アジアでは英語を話せる人が多いが、日本人は実用的に使える人は少ない。どのような課題があるのか。

○委員（小林委員）
　英語を話すことに関しては、学校の授業も変わってきておりアウトプットの機会も多くなってきていることから、今後少しずつ良い方向に進んでいくと思っている。

○委員（上田委員）
　先日長善館学習塾の閉講式に参加して、参加者本人たちの感想から、長善館の卒業生について非常に有意義な事業であることが実感としてあった。日本ではディベートの授業が日本は少ないように感じるが長善館学習塾の中にも取り込めたらいいと思う。

○委員（小林委員）
　ディベートの授業は英語の授業に取り入れられている。しかし、アメリカ式のディベートが定着しづらく、自分の考えと違う立場でディベートしたくないという人が多い。

○委員（秦委員）
　子育てについて気になっている。出生率が下がっている。若者のたちが異性に出会う機会がないのではないかと感じる。様々な形で出会いを提供できるようなイベントをつくっ

てもらうとよい。そこから結婚に結びつき、さらに燕に住み続けてもらえるとよい。

〇委員（小林委員）
　生涯学習・文化活動の充実における施策の達成目標にある、長善館史料館および良寛史料館の入館者数について、人数を増やすために検討が必要なのは入館料についてではないか。

〇教育次長
　今年度は大河津分水通水１００周年を記念した企画もあり、昨年度と比較し倍の人数に足を運んでいただいている。引き続き多くの人が訪れるような魅力ある取り組みを行っていきたい。

〇市長
　総合計画の案について委員の皆様より、貴重な意見を多くいただくことができた。本日頂いた意見については、事務局で精査させていただき、総合計画に反映できるものは反映し、詳細なものは個別計画に反映させていただく。年度内に第２回の総合教育会議を開催させていただくので完成版として皆様にお示ししたい。

５．閉　会　　午後４時 30 分